

〔段注說文解字〕下 艸木初生也象一出形有枝莖也讀若凶引而上行也枝謂兩旁莖枝柱 文或曰爲艸字也漢人所用尙爾或之言有也 不盡爾也凡云古文以灑掃字以正爲詩大雅字以巧 古

字以臥爲賢字以蒞爲魯衛之魯以哥爲歌字以詖爲頰字以爲爲字以爲爲字以爲爲字 此則非

時字少依聲託事至於古文以中爲艸字以正爲足字以爲爲字以爲爲字 此則非

無容後人效尤者也相借讀若徹尹形說尹形見漢人艸木字多用此俗誤謂此即艸字故正之言段借

必依聲託事中艸音類遠隔古文段借尙屬偶爾今則更不當爾也丑列切十五部 凡中之屬皆从艸尹形說三字當在凡中上轉寫者例之

其義者有說其形支難也屯有韻會象艸木之初生屯然而難从艸貫一屈曲之也一地也 此依九經字

者有說其音者支難也屯有韻會象艸木之初生屯然而難从艸貫一屈曲之也一地也 此依九經字

所引說文多說一爲地或說爲天象形也中貫一者木剋土也屈曲之者未申也乙 易曰屯剛柔如

交而難生周易象傳文左傳曰屯固比人序卦傳

〔日本釋名〕下 木 いきなり生るなり上を略せり又氣のをひ出る意

〔倭訓栞前編七〕き 樹木をよむも生の義生々繁茂するをいふ

〔圓珠庵雜記〕木 けむかしはけといふすさのをのみこと身の毛をぬきて投げ給へるがさまぐ

の木となる故なり

書紀神代卷一書云素盞鳴尊曰韓鄉之島是有金銀若使吾兒所御之國下不有浮寶者未是佳也

乃拔鬢髻散之即成杉又拔胸毛是成檜尻毛是成眉毛是成櫛

〔東雅樹竹〕十六 素盞鳥神出雲國に天降りまして韓郷の島は金銀あり吾兒しらすべき國をして浮寶

あらずこれよからじとのたまひて鬢髻の毛を抜き散して杉檜櫛樟被となし給ひまた噉ふべ

き八十木種をば皆能播生シキハヤさる五木猛神妹大屋津姫抓津姫神三柱の神又よく八十種の木を分

ち布き紀伊國に渡し奉る即此國に所祭の神是也と舊事紀日本紀に見えたり上古の俗木を呼

下ケと云ひしと見えしは彼神の髪毛より出でし所なるをいふなるべし紀伊國を木國と云ひ

しも亦此等の義によれりと見えたり凡木を呼びてケといひキといふが如き皆これ相轉じて